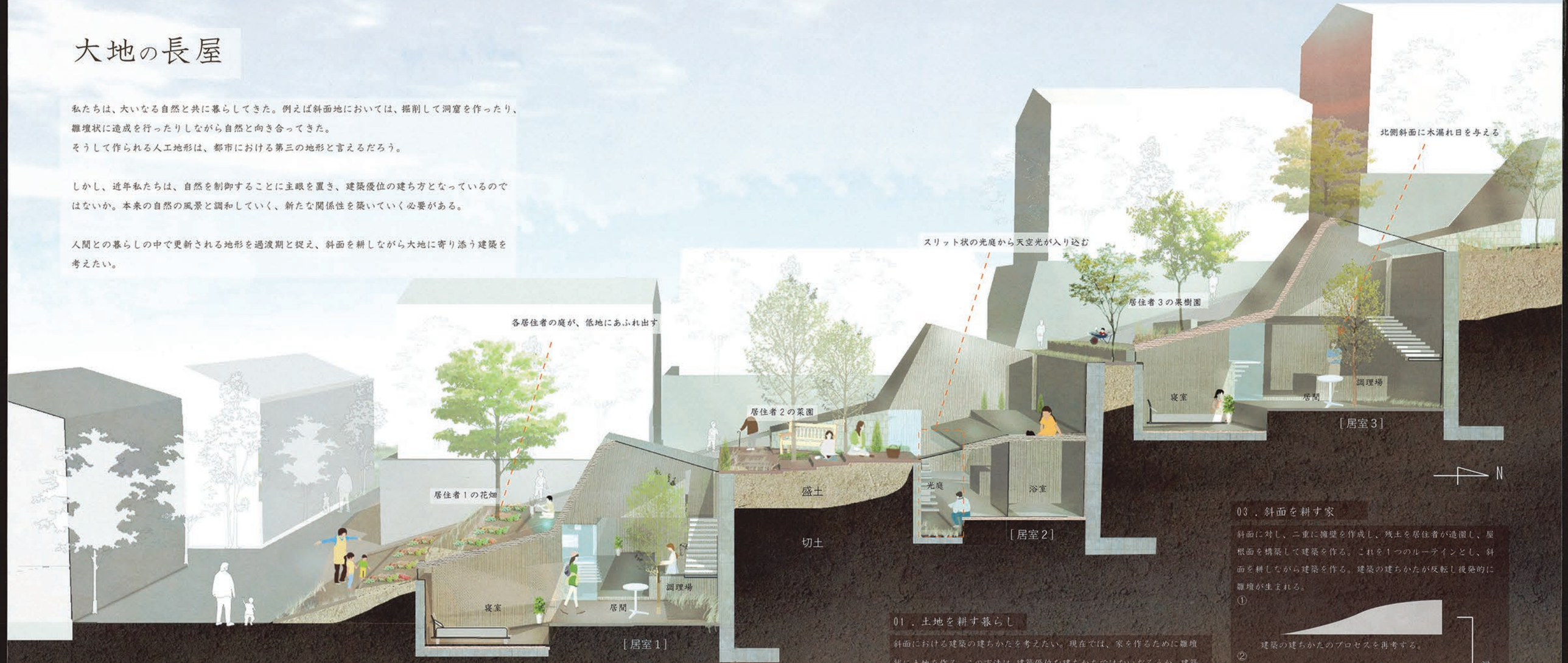
大地の長屋

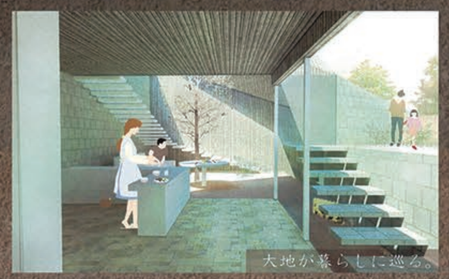
私たちは、大いなる自然と共に暮らしてきた。例えば斜面地においては、掘削して洞窟を作ったり、雛壇状に造成を行ったりしながら自然と向き合ってきた。
そうして作られる人工地形は、都市における第三の地形と言えるだろう。

しかし、近年私たちは、自然を制御することに主眼を置き、建築優位の建ち方となっているのではないか。本来の自然の風景と調和していく、新たな関係性を築いていく必要がある。

人間との暮らしの中で更新される地形を過渡期と捉え、斜面を耕しながら大地に寄り添う建築を考えたい。



大地との営みがあふれ出し新たな風景を描く。

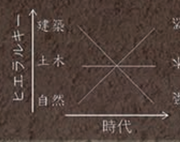

大地が暮らしに巡る。

土と木の暖かさが居間を包み込む。

01．土地を耕す暮らし

斜面における建築の建ちかたを考えたい。現在では、家を作るために雛壇状に土地を作る。この方法は、建築優位な建ちかたではないだろうか。建築、土木、自然が三位一体となる建ちかたに希望を見出したい。

現在の雛壇住宅



02. 対象敷地

対象敷地は神奈川県横須賀市。地形が激しく、高齢化、空き家の増加問題などにより町が衰退している。この地域に新しい斜面の造成の在り方を考える。

敷地写真

04. 大地がめぐる暮らし

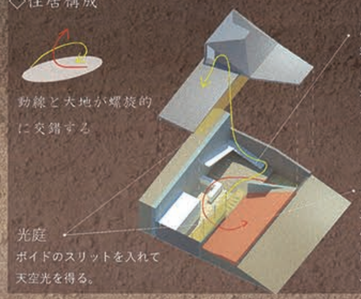
◇ 地景の見える化

地形の勾配が緩和することで、地域と居住、農耕をつなげていく。

◇ 地場産業の活性化

残土を用いて住民が造園を行うことで居住者の大地の所有意識が高まる。

03．斜面を耕す家

斜面に対し、二重に擁壁を作成し、残土を居住者が造園し、屋根面を構築して建築を作る。これを１つのルーティンとし、斜面を耕しながら建築を作る。建築の建ちかたが反転し後発的に雛壇が生まれる。

◇住居構成